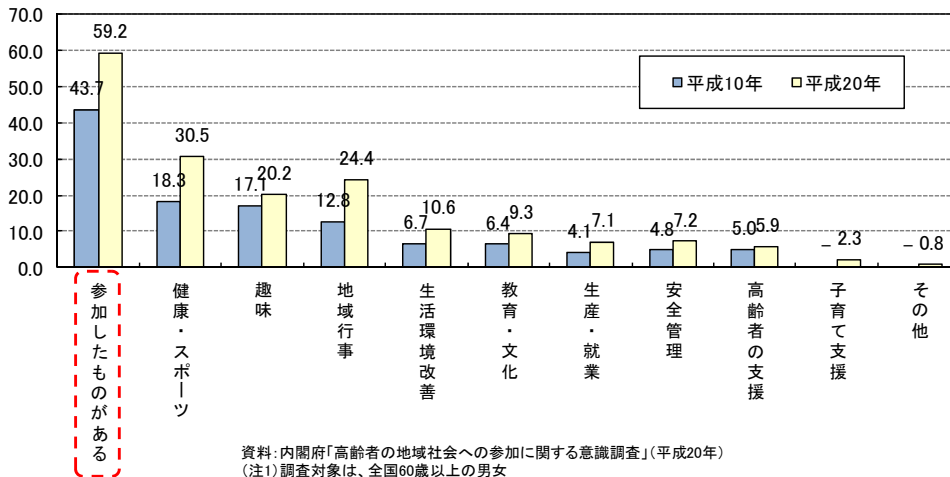


○ グループ活動に参加している高齢者は増加し、現在、約6割の高齢者が何らかのグループ活動に参加している（平成10年 43.7%→平成20年 59.2%）

高齢者のグループ活動への参加状況



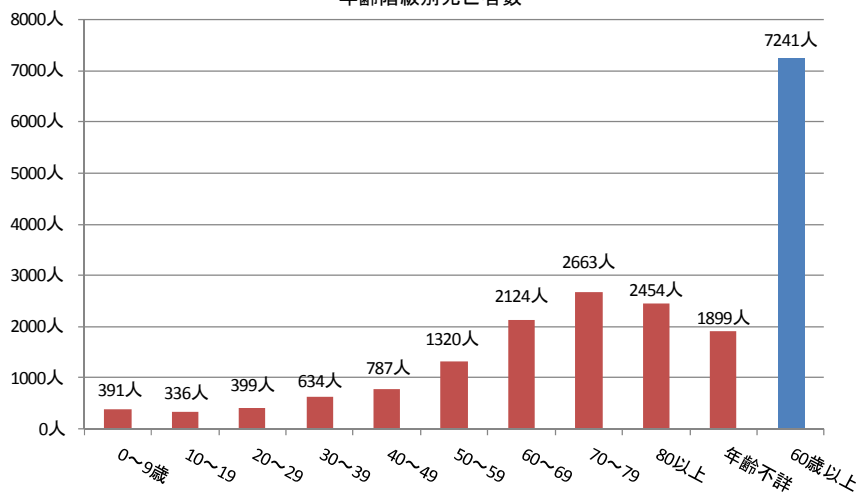
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注1) 調査対象は、全国60歳以上の男女
 (注2) 「高齢者の支援」は、平成10年は「福祉・保健」とされている。

<東日本大震災における高齢者の被害状況>

これは例年にはない数字ですが、今年の白書では、今回の東日本大震災における高齢者の被害状況を掲載しています。発生日から1カ月間に収容されたご遺体の検視等を終えて年齢が分かった方が1万1000人いらっしゃるのですが、この中で65.2%、約3分の2が60歳以上の方であったという数字です。

○ 岩手県、宮城県、福島県で収容された死亡者で年齢が判明している人（11,108人）のうち65.2%は60歳以上（集計期間は平成23年3月11日～4月11日）

年齢階級別死亡者数



警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【3/11～4/11】」より
 ※検視等を終えて年齢が判明している者を集計

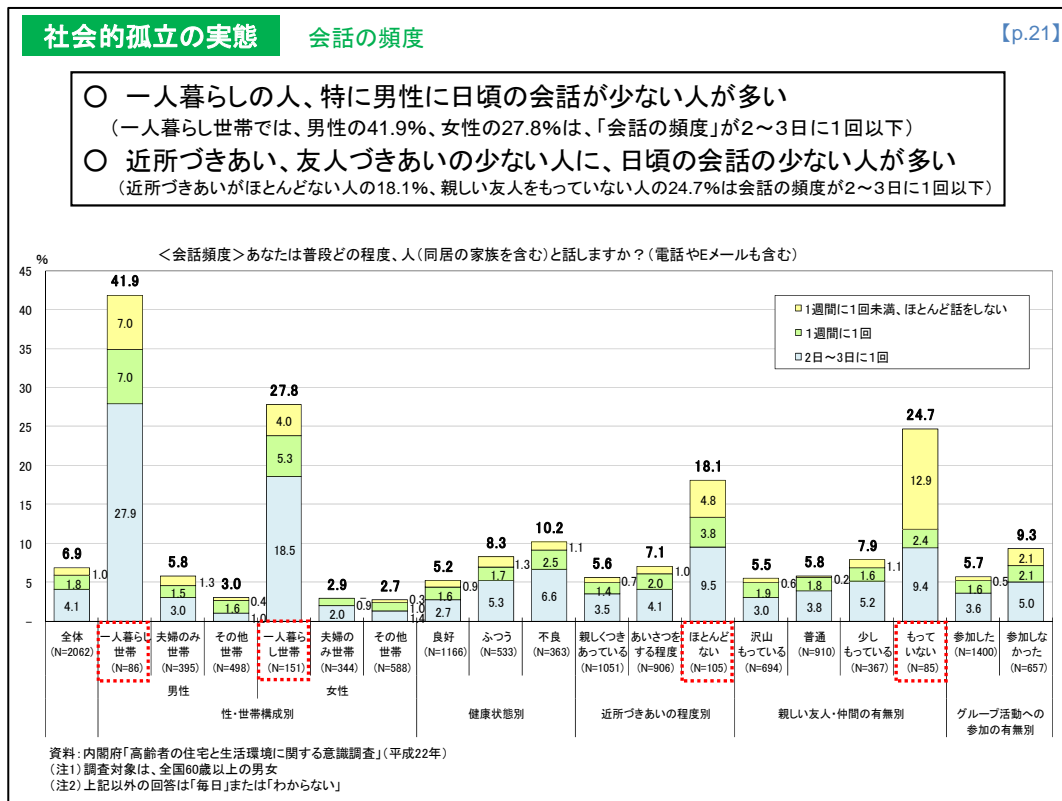
第3節 地域における高齢者の「出番」と「活躍」

① 社会的孤立の実態

今年の白書では、地域における高齢者の「出番」と「活躍」について特集を組んでいます。

<会話の頻度>

一人暮らしの方は会話の頻度が少ない人が多いのですが、その傾向は特に男性に表れています。また、近所づきあいがほとんどない、親しい友だちがいないという人も、会話の頻度は比較的、少ない状況です。



<困ったときに頼れる人がいない割合>

属性別に見ると、一人暮らしの男性は「頼れる人がいない」と答えている人が多く、近所づきあいがいない人、親しい友人・仲間を持っていない人も同様です。これは先ほどと同じ傾向を示しています。